

モジュールタイプ調節計 SRX

PLC 通信対応温度制御モジュール

X-TIO-R

取扱説明書

IMS01N12-J2

理化工業製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。本製品をお使いになる前に、本書をよくお読みいただき、内容を理解されたうえでご使用ください。なお、本書は大切に保管し、必要なときにご活用ください。

本書の表記について

警告 : 感電、火災(火傷)等、取扱者の生命や人体に危険がおよぶ恐れがある注意事項が記載されています。

注意 : 操作手順等で従わないと機器損傷の恐れがある注意事項が記載されています。



: 特に、安全上注意していただきたいところにこのマークを使用しています。



: 操作や取扱上の重要事項についてこのマークを使用しています。



: 操作や取扱上の補足説明にこのマークを使用しています。



: 詳細・関連情報の参照先にこのマークを使用しています。



警告

- 本製品の故障や異常によるシステムの重大な事故を防ぐため、外部に適切な保護回路を設置してください。
- すべての配線が終了するまで電源を ON にしないでください。感電・火災・故障の原因になります。
- 本製品は、記載された仕様の範囲外で使用しないでください。火災・故障の原因になります。
- 引火性・爆発性ガスのあるところでは使用しないでください。
- 電源端子など高電圧部に触らないでください。感電の恐れがあります。
- 本製品の分解、修理、および改造はしないでください。感電・火災・故障の原因になります。

輸出貿易管理令に関するご注意

大量破壊兵器等(軍用用途・軍事設備等)で使用されることがない様、最終用途や最終客先を調査してください。なお、再販売についても不正に輸出されない様、十分に注意してください。

注意

- 本製品は、産業機械、工作機械、計測機器に使用されることを意図しています。(原子力設備および人命にかかわる医療機器などには使用しないでください。)
- 本製品はクラス A 機器です。本製品は家庭内環境において、電波障害を起こすことがあります。その場合は使用者が十分な対策を行ってください。
- 本製品は強化絶縁によって、感電保護を行っています。本製品を装置に組み込み、配線するときは、組み込み装置が適合する規格の要求に従ってください。
- 本製品におけるすべての入出力信号ラインを、屋内で長さ 30 m 以上で配線する場合は、サージ防止のため適切なサージ抑制回路を設置してください。また、屋外に配線する場合は、配線の長さにかかわらず適切なサージ抑制回路を設置してください。
- 本製品は、計装パネルに設置して使用することを前提に製作されていますので、使用者が電源端子等の高電圧部に近づけないような処置を最終製品側で行ってください。
- 本書に記載されている注意事項を必ず守ってください。注意事項を守らずに使用すると、重大な傷害や事故につながる恐れがあります。
- 配線を行うときは、各地域の規則に準拠してください。
- 感電、機器故障、誤動作を防止するため、電源、出力、入力など、すべての配線が終了してから電源を ON にしてください。また、入力断線の修復や、コンタクタ、SSR の交換など出力関係の修復時にも、一旦電源を OFF にし、すべての配線が終了してから電源を再度 ON にしてください。
- 本製品の故障による損傷を防ぐため、本製品に接続される電源ラインや高電流容量の入出力ラインに対しては、十分な遮断容量のある適切な過電流保護デバイス(ヒューズやサーキットブレーカーなど)によって回路保護を行ってください。
- 製品の中に金属片や導線の切りくずを入れないでください。感電・火災・故障の原因になります。
- 端子ネジは記載されたトルクで確実に締めてください。締め付けが不完全だと感電・火災の原因になります。
- 放熱を妨げないよう、本機の周辺をふさがないでご使用ください。また通風孔はふさがないでください。
- 不使用端子には何も接続しないでください。
- クリーニングは必ず電源を OFF にしてから行ってください。
- 本製品の汚れは柔らかい布で乾拭きしてください。なお、シナ類は使用しないでください。変形、変色の恐れがあります。
- 表示部は硬い物でこすったり、たたいたりしないでください。
- モジュラーコネクタは電話回線に接続しないでください。
- イベント機能を待機動作(再待機動作含む)付き上限警報として使用する場合、待機動作中は警報が ON にならないため、操作器等の不具合によって、過昇温につながる場合があります。別途、過昇温防止対策を行ってください。

ご使用の前に

- 本書では、読者が電気関係、制御関係、コンピュータ関係および通信関係などの基礎知識を持っていることを前提としています。
- 本書で使用している図や数値例、画面例は、本書を理解しやすいように記載したものであり、その結果の動作を保証するものではありません。
- 以下に示す損害をユーザーや第三者が被っても、当社は一切の責任を負いません。
 - 本製品を使用した結果の影響による損害
 - 当社において予測不可能な本製品の欠陥による損害
 - 本製品の模倣品を使用した結果による損害
 - その他、すべての間接的損害
- 本製品を継続的かつ安全にご使用いただくために、定期的なメンテナンスが必要です。本製品の搭載部品には寿命があるものと経年変化するものがあります。
- 本書の記載内容は、お断りなく変更することがあります。本書の内容については、万全を期しておりますが、万一ご不審な点やお気づきの点などがありましたら、当社までご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で転載、複製することを禁じます。

1. 概要

PLC 通信対応温度制御モジュール X-TIO-R は 1 台で 2 チャネル分の温度制御が可能です。温度制御入出力の他に電源と通信の端子を持っています。また、PLC 通信／ホスト通信のモジュラーコネクタを持っています。

[モジュラーコネクタ通信種類]

以下のいずれかが選択できます。

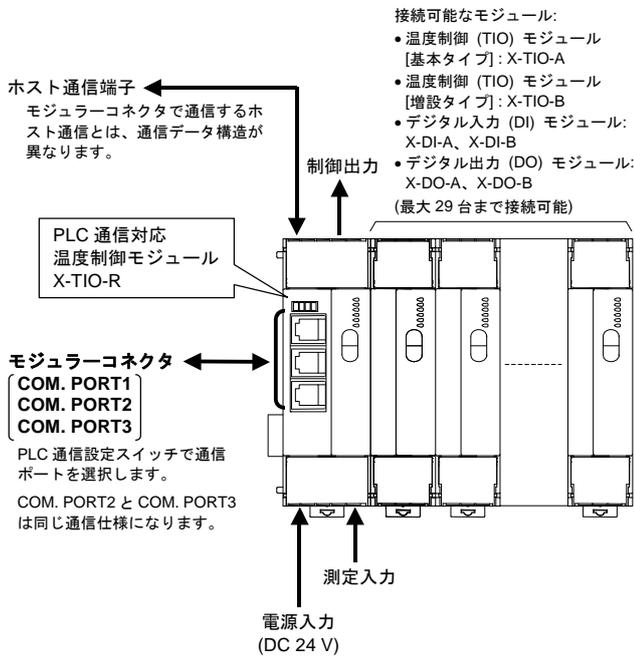
- PLC 通信とホスト通信: 各 1 ポート
- ホスト通信: 2 ポート

[通信ポート割付]

COM. PORT1 と COM. PORT2/COM. PORT3 に対して通信を割り付けると、以下の 4 とおりが可能です。

	割付 1	割付 2	割付 3	割付 4
COM. PORT1	ホスト通信 1	PLC 通信	ホスト通信 1	ホスト通信 2
COM. PORT2/ COM. PORT3	PLC 通信	ホスト通信 1	ホスト通信 2	ホスト通信 1

📖 ホスト通信 1 と 2 は、個別にデータビット構成、通信速度、および通信プロトコルが設定できます。



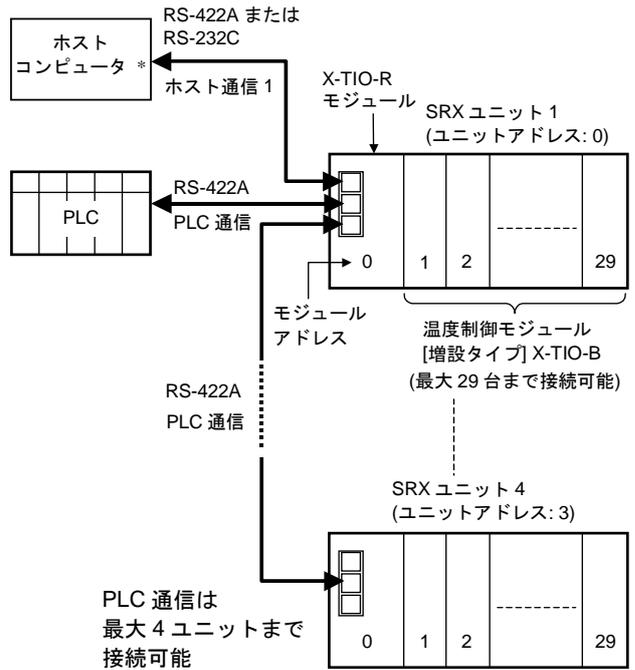
📖 通信ポートの割付等については、4.2 プロトコル選択と通信速度設定 (P. 5) を参照してください。

📖 各データの設定はすべて通信で行います。詳細はモジュールタイプ調節計 SRX PLC/ホスト通信取扱説明書 (IMS01N13-J口) を参照してください。

📖 ホスト通信端子を使用した通信については、モジュールタイプ調節計 SRX 通信取扱説明書 (IMS01N01-J口) を参照してください。

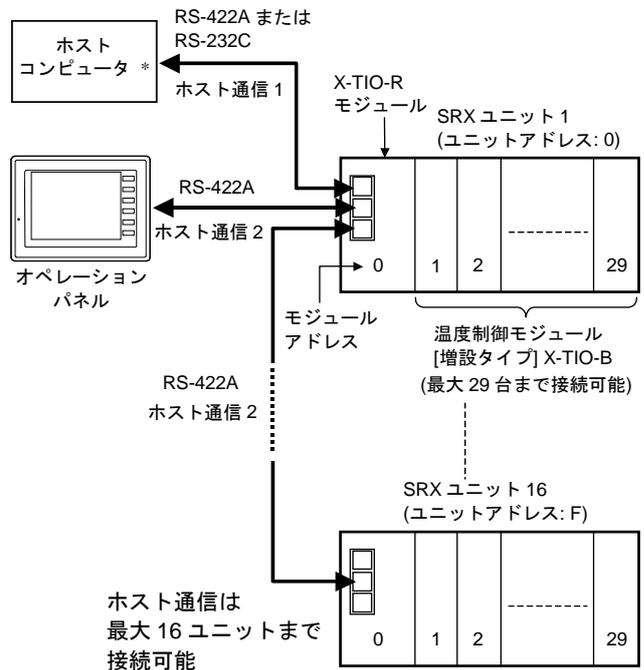
■ システム構成例

● ホスト通信 1/PLC 通信



* COM. PORT1 に接続しているホストコンピュータは、SRX ユニット 1 に対してのみ通信可能です。

● ホスト通信 1/ホスト通信 2



* COM. PORT1 に接続しているホストコンピュータは、SRX ユニット 1 に対してのみ通信可能です。

📖 COM. PORT1 側のマルチドロップ接続については、モジュールタイプ調節計 SRX PLC/ホスト通信取扱説明書 (IMS01N13-J口) を参照してください。

2. 現品の確認

ご使用前に、以下の確認をしてください。

- 型式コード
- 付属品が揃っていること
- 外観 (ケース、前面部、端子部等) にキズや破損がないこと

X-TIO-R- □ □ - □ □ * □ □ - □
 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)

(1) タイプ

R: PLC 通信対応モジュール

(2) 入力チャネル 1、(3) 入力チャネル 2

- | | |
|-------------------|-----------------|
| K: 熱電対 K | D: 測温抵抗体 Pt100 |
| J: 熱電対 J | P: 測温抵抗体 JPt100 |
| T: 熱電対 T | 1: DC 0~10 mV |
| S: 熱電対 S | 2: DC 0~100 mV |
| R: 熱電対 R | 3: DC 0~1 V |
| A: 熱電対 PL II | 4: DC 0~5 V |
| N: 熱電対 N | 5: DC 0~10 V |
| E: 熱電対 E | 6: DC 1~5 V |
| W: 熱電対 W5Re/W26Re | 7: DC 0~20 mA |
| B: 熱電対 B | 8: DC 4~20 mA |

(4) 制御出力 1、(5) 制御出力 2

- M: リレー接点出力
 V: 電圧パルス出力 DC 0/12 V
 4: DC 0~5 V
 5: DC 0~10 V
 6: DC 1~5 V
 7: DC 0~20 mA
 8: DC 4~20 mA

(6) CT1 入力、(7) CT2 入力

- N: なし
 P: CTL-6-P-N
 S: CTL-12-S56-10L-N

(8) 通信インターフェース (COM. PORT1) *

- 1: RS-232C
 4: RS-422A

* COM. PORT2/COM. PORT3 は RS-422A、ホスト通信端子は RS-485 で固定です。



制御出力が電流出力または電圧出力の場合、ヒータ断線警報機能 (HBA) は使用できません。

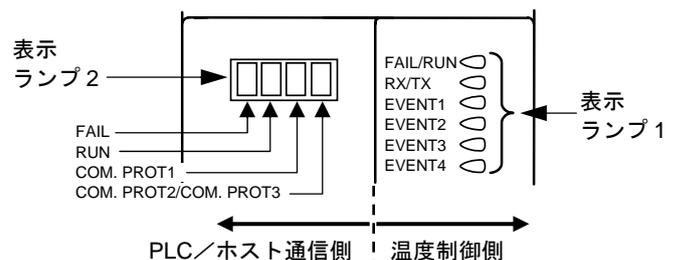
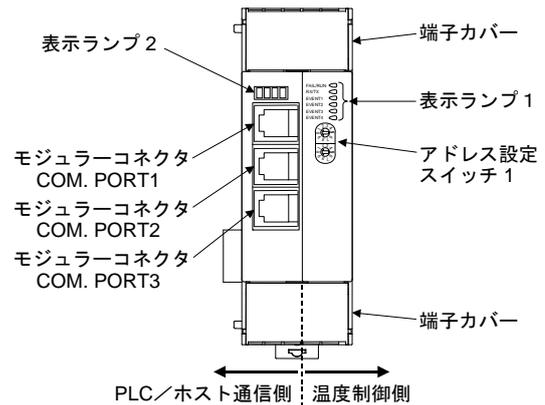
■ 付属品

エンドプレート.....	2
連結コネクタカバー.....	2
X-TIO-R 取扱説明書 (IMS01N12-J2).....	1



付属品の不足などがありましたら、当社営業所または代理店までご連絡ください。

3. 各部の名称



[表示ランプ 1]

- FAIL/RUN
 温度制御側正常動作中: 緑色ランプ点灯 (RUN)
 温度制御側異常時: 赤色ランプ点灯 (FAIL)
 自己診断エラー時: 緑色ランプ点滅
- RX/TX
 内部通信 (端子) データ送受信時: 緑色ランプ点灯
- EVENT 1~4
 設定によって様々な状態を表示します。

主な表示内容

イベント 1 状態、イベント 2 状態、総合イベント状態、出力状態、制御状態、実行セグメント状態、タイムシグナル状態

[表示ランプ 2]

- FAIL
 PLC/ホスト通信側正常動作中: 赤色ランプ消灯
 PLC/ホスト通信側異常時: 赤色ランプ点灯
 スイッチによる通信環境設定モード時: 赤色ランプ点滅
- RUN
 PLC/ホスト通信側正常動作中: 緑色ランプ点灯
 PLC/ホスト通信側異常時: 緑色ランプ消灯
 メモリバックアップ異常時: 緑色ランプ点滅 (遅い点滅)
 モジュール構成異常時: 緑色ランプ点滅 (遅い点滅)
 PLC 通信異常時: 緑色ランプ点滅 (遅い点滅)
 電源投入直後のデータ収集時: 緑色ランプ点滅 (速い点滅)
- COM. PORT1
 COM. PORT1 データの送受信時: 黄色ランプ点灯
- COM. PORT2/COM. PORT3
 COM. PORT2/COM. PORT3 データの送受信時: 黄色ランプ点灯

4. 通信設定

機器の取付／配線前に、通信に関する設定を行ってください。

注意

電源 ON 状態のまま、モジュール本体をターミナルベースから引き抜かないでください。機器故障の原因となります。

■ PLC 通信を使用する場合に必要な設定

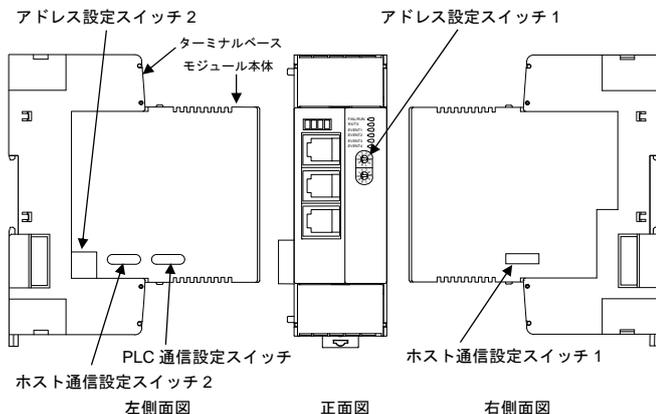
- **アドレス設定スイッチ 1 (前面) P. 4 参照**
モジュールアドレスを設定します。
- **アドレス設定スイッチ 2 (左側面) P. 4 参照**
PLC 通信のユニットアドレスを設定します。
- **PLC 通信設定スイッチ (左側面) P. 5 参照**
PLC 通信のデータビット構成、通信速度、通信プロトコルを設定します。PLC と同じ内容に設定します。
また、モジュラーコネクタの通信ポート選択を行います。
- **ホスト通信設定スイッチ 1 (右側面) P. 6 参照**
ホスト通信端子を使用する場合の、データビット構成、通信速度、通信プロトコルを設定します。ホストコンピュータと同じ内容に設定します。

■ ホスト通信 1 を使用する場合に必要な設定

- **アドレス設定スイッチ 1 (前面) P. 4 参照**
モジュールアドレスを設定します。
- **アドレス設定スイッチ 2 (左側面) P. 4 参照**
ホスト通信 1 のユニットアドレスを設定します。
- **PLC 通信設定スイッチ (左側面) P. 5 参照**
モジュラーコネクタの通信ポート選択を行います。
- **ホスト通信設定スイッチ 2 (左側面) P. 5 参照**
ホスト通信 1 のデータビット構成、通信速度、通信プロトコルを設定します。ホストコンピュータと同じ内容に設定します。
- **ホスト通信設定スイッチ 1 (右側面) P. 6 参照**
ホスト通信端子を使用する場合の、データビット構成、通信速度、通信プロトコルを設定します。ホストコンピュータと同じ内容に設定します。

■ ホスト通信 2 を使用する場合に必要な設定

- **アドレス設定スイッチ 1 (前面) P. 4 参照**
モジュールアドレスを設定します。
- **アドレス設定スイッチ 2 (左側面) P. 4 参照**
ホスト通信 2 のユニットアドレスを設定します。
- **PLC 通信設定スイッチ (左側面) P. 5 参照**
ホスト通信 2 のデータビット構成、通信速度、通信プロトコルを設定します。ホストコンピュータと同じ内容に設定します。
また、モジュラーコネクタの通信ポート選択を行います。
- **ホスト通信設定スイッチ 1 (右側面) P. 6 参照**
ホスト通信端子を使用する場合の、データビット構成、通信速度、通信プロトコルを設定します。ホストコンピュータと同じ内容に設定します。



4.1 アドレス設定

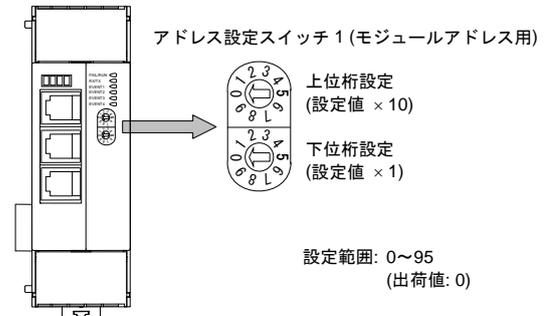
アドレスを設定します。設定は小型のマイナスドライバを使用してください。

- 📖 同一ライン上では、アドレスが重複しないように設定してください。アドレスが重複すると、機器故障や誤動作の原因になります。

■ モジュールアドレス設定

複数台のモジュールを使用するときは、個々のモジュールに対してモジュールアドレスを設定します。

(PLC 通信／ホスト通信共通)

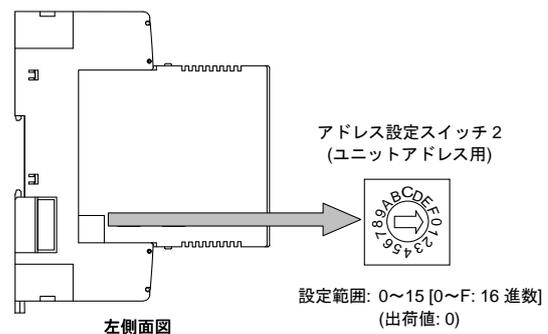


- 📖 ● アドレス 96~99 は設定しないでください。誤動作の原因となります。
- MODBUS の場合、設定したアドレスに「1」を加えた値が、実際のプログラムで使用されるアドレスです。
- 同一ライン上では、モジュールアドレスが重複しないように設定してください。モジュールアドレスが重複すると、機器故障や誤動作の原因になります。

■ ユニットアドレス設定

複数台の X-TIO-R モジュールをマルチドロップ接続する場合、各 X-TIO-R モジュールに対してアドレスを設定します。これが、SRX ユニットのユニットアドレスになります。

(PLC 通信／ホスト通信共通)



● PLC 通信の場合

PLC の 1 つの通信ポートに対して、X-TIO-R モジュールは 4 台まで接続できます。このため、ユニットアドレスは、4 台を 1 グループとして使用します。下表の 4 グループの内、いずれか 1 グループの連続した番号をユニットアドレスとして使用してください。

グループ	アドレス設定スイッチ 2	グループ	アドレス設定スイッチ 2
グループ 1	0	グループ 3	8
	1		9
	2		A
	3	B	
グループ 2	4	グループ 4	C
	5		D
	6		E
	7		F

各グループのユニットアドレスには、必ず「0」、「4」、「8」、「C」を含めて設定してください。「0」、「4」、「8」、「C」が通信切換のマスタになります。

●ホスト通信の場合

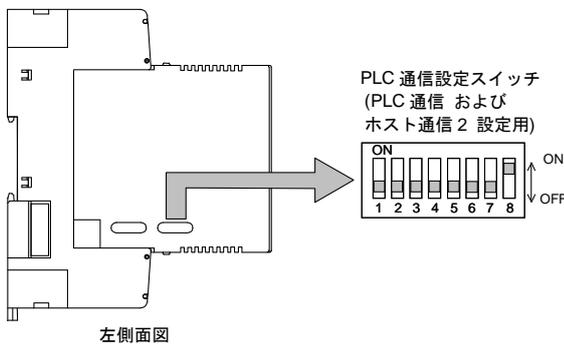
PLC 通信の場合とは異なり、グループ制限はありません。0～Fの範囲で自由に設定できます。

MODBUS の場合、設定したアドレスに「1」を加えた値が、実際のプログラムで使用されるアドレスです。

4.2 プロトコル選択と通信速度設定

■ PLC 通信設定スイッチ

「PLC 通信」および「ホスト通信 2」について、データビット構成、通信速度、および通信プロトコルを設定します。また、モジュラーコネクタの通信ポート選択を行います。なお、設定したデータは電源を再度 ON にするか、または STOP から RUN に変更することで有効になります。



1	2	データビット構成
OFF	OFF	データ 8 ビット、パリティなし、ストップ 1 ビット
ON	OFF	データ 7 ビット*、奇数パリティ、ストップ 1 ビット
OFF	ON	データ 7 ビット*、偶数パリティ、ストップ 1 ビット
ON	ON	データ 7 ビット*、偶数パリティ、ストップ 2 ビット

* ホスト通信 2 (MODBUS) を選択した場合のみ、データ 8 ビットに変更されます。

出荷値: データ 8 ビット、パリティなし、ストップ 1 ビット

3	4	通信速度
OFF	OFF	9600 bps
ON	OFF	19200 bps
OFF	ON	38400 bps
ON	ON	設定しないでください。

出荷値: 9600 bps

5	6	7	通信プロトコル
OFF	OFF	OFF	ホスト通信 2 (RKC 通信)
ON	OFF	OFF	ホスト通信 2 (MODBUS)
OFF	ON	OFF	設定しないでください。
ON	ON	OFF	
OFF	OFF	ON	PLC 通信 三菱電機株式会社製 MELSEC シリーズ 専用プロトコル ACPU 共通コマンド (WR/WW)
ON	OFF	ON	PLC 通信 三菱電機株式会社製 MELSEC シリーズ 専用プロトコル AnA/AnUCPU 共通コマンド (QR/QW)
OFF	ON	ON	設定しないでください。
ON	ON	ON	

出荷値: ホスト通信 2 (RKC 通信)

8	通信ポート選択
OFF	COM. PORT1: PLC 通信/ホスト通信 2 [RS-232C/RS-422A] COM. PORT2/COM. PORT3: ホスト通信 1 [RS-422A]
ON	COM. PORT1: ホスト通信 1 [RS-232C/RS-422A] COM. PORT2/COM. PORT3: PLC 通信/ホスト通信 2 [RS-422A]

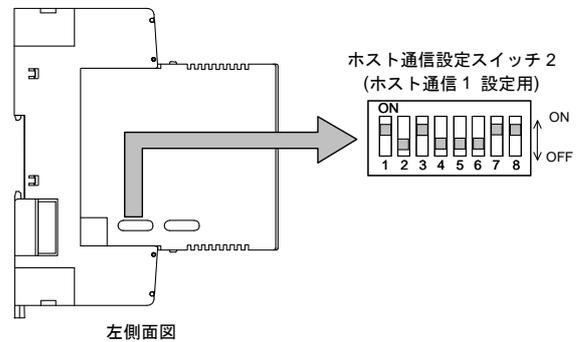
出荷値: COM. PORT1: ホスト通信 1 [RS-232C/RS-422A]
COM. PORT2/COM. PORT3:
PLC 通信/ホスト通信 2 [RS-422A]

複数台の X-TIO-R モジュールを接続する場合、すべての X-TIO-R モジュールの PLC 通信設定スイッチを同じ設定にしてください。

COM. PORT2 と COM. PORT3 は、同じ通信仕様になります。

■ ホスト通信設定スイッチ 2

「ホスト通信 1」について、通信速度、データビット構成、通信プロトコル、および内部データバス終端抵抗を設定します。



1	2	通信速度
OFF	OFF	2400 bps
ON	OFF	9600 bps
OFF	ON	19200 bps
ON	ON	38400 bps

出荷値: 9600 bps

3	4	5	データビット構成
OFF	OFF	OFF	データ 7 ビット、パリティなし、ストップ 1 ビット *
OFF	OFF	ON	データ 7 ビット、偶数パリティ、ストップ 1 ビット *
OFF	ON	ON	データ 7 ビット、奇数パリティ、ストップ 1 ビット *
ON	OFF	OFF	データ 8 ビット、パリティなし、ストップ 1 ビット
ON	OFF	ON	データ 8 ビット、偶数パリティ、ストップ 1 ビット
ON	ON	ON	データ 8 ビット、奇数パリティ、ストップ 1 ビット

* MODBUS 通信時は設定無効となります。

出荷値: データ 8 ビット、パリティなし、ストップ 1 ビット

6	通信プロトコル
OFF	ホスト通信 1 (RKC 通信)
ON	ホスト通信 1 (MODBUS)

出荷値: ホスト通信 1 (RKC 通信)

8	内部データバス終端抵抗設定
OFF	終端抵抗 OFF
ON	終端抵抗 ON

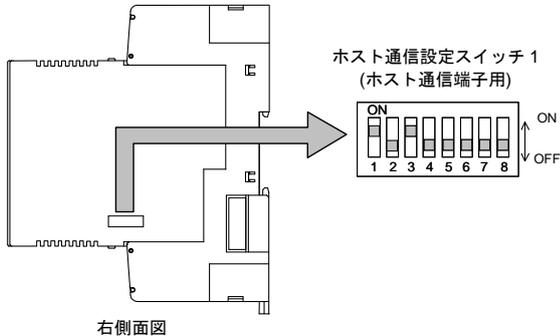
出荷値: 終端抵抗 ON



- スイッチ No. 7 は ON で固定。(変更不可)
- X-TIO-R モジュールに複数台のモジュール (TIO モジュール [増設タイプ] 等) を接続する場合、通信速度、データビット構成、通信プロトコルは、すべて X-TIO-R モジュールの通信設定に合わせてください。

■ ホスト通信設定スイッチ 1

「ホスト通信端子を使用したホスト通信」について、通信速度、データビット構成、通信プロトコル、および内部データバス終端抵抗を設定します。



1	2	通信速度
OFF	OFF	2400 bps
ON	OFF	9600 bps
OFF	ON	19200 bps
ON	ON	38400 bps

出荷値: 9600 bps

3	4	5	データビット構成
OFF	OFF	OFF	データ 7 ビット、パリティなし、ストップ 1 ビット *
OFF	OFF	ON	データ 7 ビット、偶数パリティ、ストップ 1 ビット *
OFF	ON	ON	データ 7 ビット、奇数パリティ、ストップ 1 ビット *
ON	OFF	OFF	データ 8 ビット、パリティなし、ストップ 1 ビット
ON	OFF	ON	データ 8 ビット、偶数パリティ、ストップ 1 ビット
ON	ON	ON	データ 8 ビット、奇数パリティ、ストップ 1 ビット

* MODBUS 通信時は設定無効となります。

出荷値: データ 8 ビット、パリティなし、ストップ 1 ビット

6	通信プロトコル
OFF	RKC 通信
ON	MODBUS

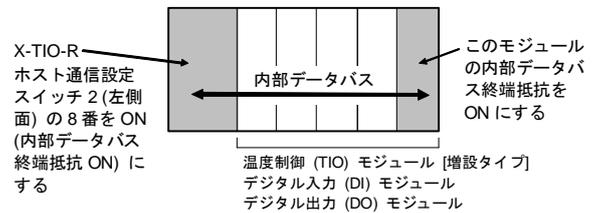
出荷値: RKC 通信

8	内部データバス終端抵抗設定
OFF	終端抵抗 OFF
ON	終端抵抗 ON

出荷値: 終端抵抗 OFF



- スイッチ No. 7 は OFF で固定。(変更不可)
- X-TIO-R モジュールに複数台のモジュール (TIO モジュール [増設タイプ] 等) を接続する場合、通信速度、データビット構成、通信プロトコルは、すべて X-TIO-R モジュールの通信設定に合わせてください。
- 内部データバス終端抵抗の設定
X-TIO-R モジュールに他のモジュールを複数台接続した場合:



X-TIO-R モジュールを単独で接続した場合:

ホスト通信設定スイッチ 1:

No.8 を ON (内部データバス終端抵抗 ON) にする。

ホスト通信設定スイッチ 2:

No.8 を ON (内部データバス終端抵抗 ON) にする。

- スイッチ No. 4~6 で通信時間設定モードにできます。



通信時間設定モードについては、SRX PLC/ホスト通信取扱説明書 (IMS01N13-J口) を参照してください。

5. 取 付



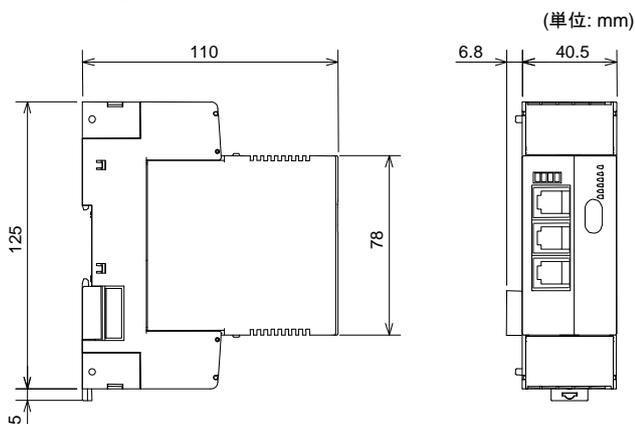
警告

感電防止および機器故障防止のため、必ず電源を OFF にしてから本機器の取り付け、取り外しを行ってください。

5.1 取付上の注意

- (1) 本機器は、つぎの環境仕様で使用されることを意図しています。(IEC61010-1) [過電圧カテゴリ II、汚染度 2]
- (2) 以下の周囲温度、周囲湿度、設置環境条件の範囲内で使用してください。
 - 許容周囲温度: $-10\sim+50\text{ }^{\circ}\text{C}$
 - 許容周囲湿度: $5\sim95\text{ \%RH}$
(絶対湿度: MAX.W.C 29.3 g/m³ dry air at 101.3 kPa)
 - 設置環境条件: 屋内使用
高度 2000 m まで
- (3) 特に、つぎのような場所への取り付けは避けてください。
 - 温度変化が急激で結露するような場所
 - 腐食性ガス、可燃性ガスが発生する場所
 - 本体に直接振動、衝撃が伝わるような場所
 - 水、油、薬品、蒸気、湯気のかかる場所
 - 塵埃、塩分、鉄分の多い場所
 - 誘導障害が大きく、静電気、磁気、ノイズが発生しやすい場所
 - 冷暖房の空気が直接あたる場所
 - 直射日光の当たる場所
 - 輻射熱などによる熱蓄積の生じるような場所
- (4) 取り付けを行う場合は、つぎのことを考慮してください。
 - 熱がこもらないように、通風スペースを十分にとってください。
 - 発熱量の大きい機器 (ヒータ、トランス、半導体操作器、大容量の抵抗) の真上に取り付けるのは避けてください。
 - 周囲温度が $50\text{ }^{\circ}\text{C}$ 以上になるときは、強制ファンやクーラーなどで冷却してください。ただし、冷却した空気が本機器に直接当たらないようにしてください。
 - 耐ノイズ性能や安全性を向上させるため、高圧機器、動力線、動力機器からできるだけ離して取り付けしてください。
高圧機器: 同じ盤内での取り付けはしないでください。
動力線: 200 mm 以上離して取り付けてください。
動力機器: できるだけ離して取り付けてください。
 - 配線、保守、耐環境を考慮し、機器の上下は 50 mm 以上のスペースを確保してください。
- (5) 本機器の近くで、かつすぐに操作できる場所に、スイッチやサーキットブレーカーを設置してください。また、それらは本機器用の遮断デバイスであることを明示してください。

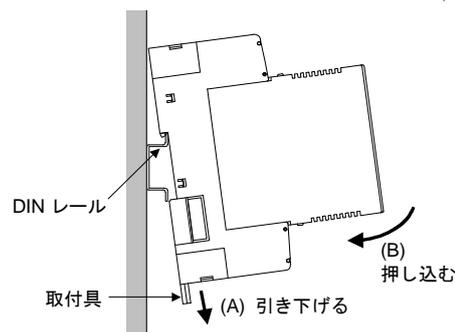
5.2 外形寸法



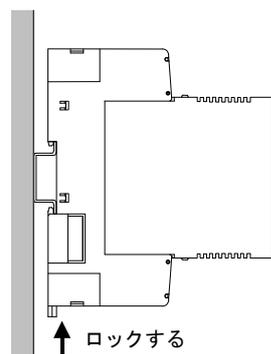
5.3 DIN レールへの取付

■ 取付方法

1. 取付具を下に引き下げ (A)、裏面のツメを DIN レールの上側に引っかけてから、矢印の方向に押し込みます (B)。

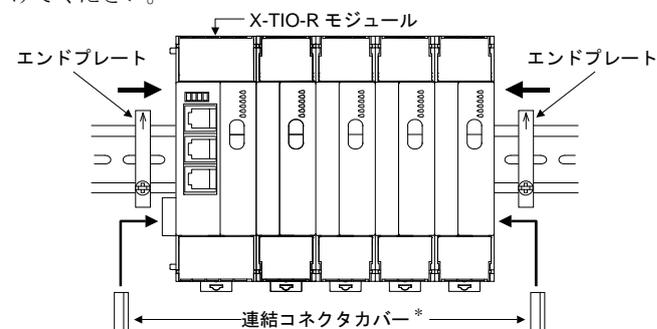


2. 取付具を上押し込んで、DIN レールから外れないようにロックします。



■ エンドプレートの取付

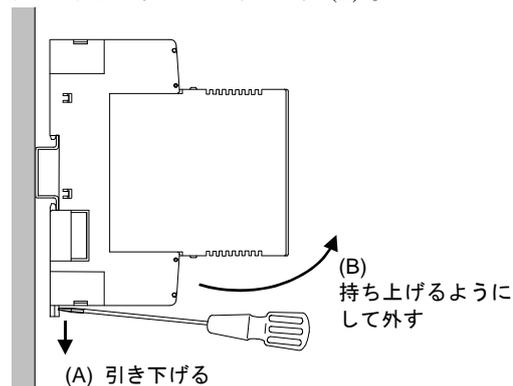
エンドプレートを本体の両端に取り付け、ネジで固定します。X-TIO-R モジュールが 1 台の場合でも、エンドプレートは取り付けてください。



* コネクタ接点保護のため、接続コネクタカバーを、両端のモジュールに取り付けてください。

■ 取り外し方法

マイナスドライバなどで取付具を引き下げてから (A)、下側から機器を持ち上げるようにして外します (B)。



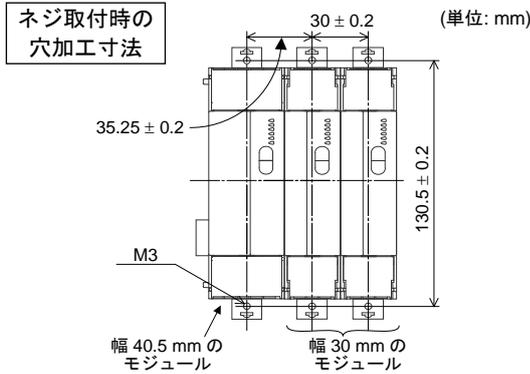
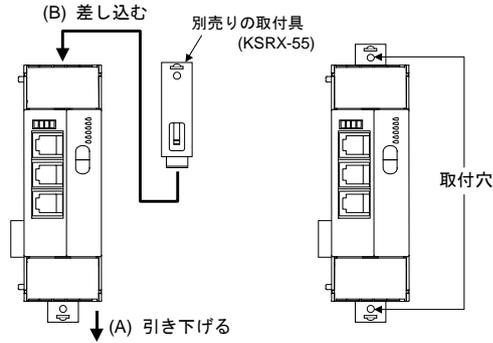
5.4 ネジ取付

■ 取付方法

1. 取付具をロックがかかるまで引き下げ、取付穴が見えるようにします (A)。
2. 別売りの取付具 (KSRX-55) を用意し、機器上部端子台の後ろ側にロックがかかるまで差し込みます (B)。ただし、取付穴が見えるようにします。
3. 上下の取付具の取付穴を使って、ネジで直接パネル等に取り付けます。

推奨締付トルク: 0.3 N・m

📖 ネジは、M3 サイズで取付場所に合った長さのものを、お客様で用意してください。



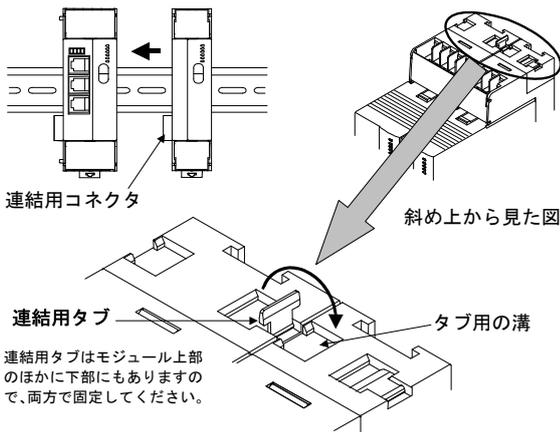
5.5 モジュールの連結

X-TIO-R モジュール 1 台に対して、接続可能なモジュールを最大 29 台まで接続することができます。モジュールの連結は、以下の方法に従ってください。

■ 連結方法

1. モジュールを DIN レールに取り付けた後、モジュールをスライドさせて連結用コネクタでモジュールどうしを接続します。
2. モジュール上部および下部にある連結用タブを持ち上げて、隣のモジュールにあるタブ用の溝に押し込み、モジュールどうしを固定します。

📖 ネジ取付の場合は、モジュールの連結が終了してからパネル等に取り付けてください。



連結用タブはモジュール上部のほかに下部にもありますので、両方で固定してください。

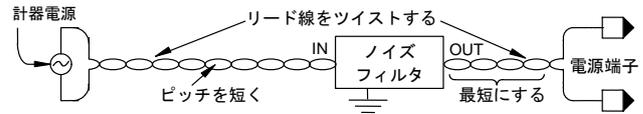
6. 配線



感電防止および機器故障防止のため、すべての配線が終了するまで電源を ON にしないでください。また、本機器への通電前には配線が正しいことを必ず確認してください。

6.1 配線上の注意

- 熱電対入力の場合は、所定の補償導線を使用してください。
- 测温抵抗体入力の場合は、リード線抵抗が小さく、3 線間の抵抗差のない線材を使用してください。
- 入力信号線はノイズ誘導の影響を避けるため、計器電源線、動力電源線、負荷線から離して配線してください。
- 電圧/電流入力には、SELV 回路 (IEC60950-1) からの信号を接続してください。
- 計器電源は、動力電源からのノイズ影響を受けないように配線してください。ノイズの影響を受けやすい場合にはノイズフィルタの使用を推奨します。
 - 線材はより合わせてください。より合わせのピッチが短いほどノイズに対して効果的です。
 - ノイズフィルタは必ず接地されているパネル等に取り付け、ノイズフィルタ出力側と電源端子の配線は最短で行ってください。
 - ノイズフィルタ出力側の配線にヒューズ、スイッチなどを取り付けると、フィルタとしての効果が悪くなりますので行わないでください。

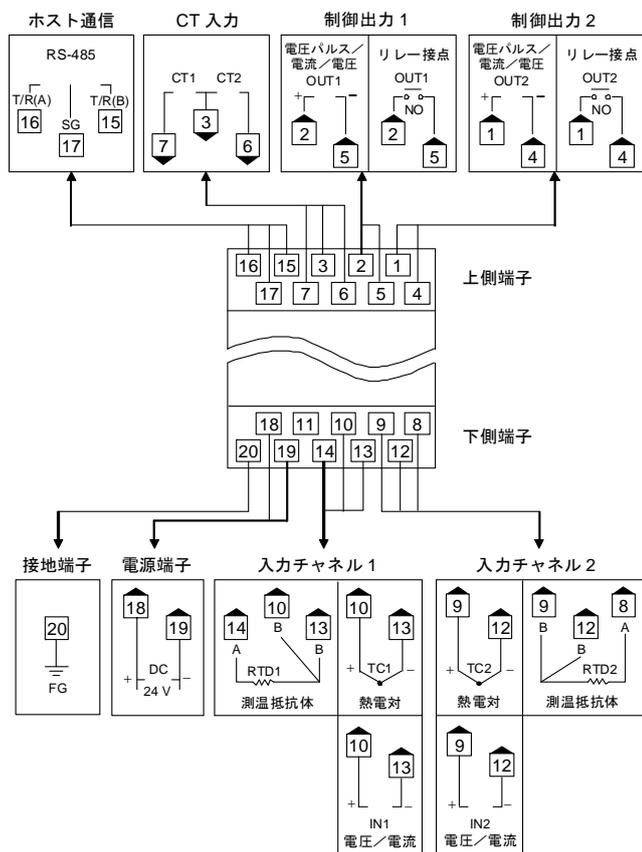


- 電源供給線は、電圧降下の少ない電線をツイストしたうえで使用してください。
- 24 V 電源仕様の製品には、電源に SELV 回路 (IEC60950-1) からの電源を供給してください。
- 最終用途機器には、適切な電源を供給してください。
 - 電源はエネルギー制限回路に適合 (最大電流 8 A) するもの
- 本機器 (モジュール構成: 1~30 モジュール) には、最大出力電流 4 A 以上の電源を供給してください。
- 端子ネジは締めすぎないようにしてください。
(ネジサイズ: M3×6 推奨締付トルク: 0.4 N・m)
また、圧着端子 (指定圧着端子タイプ: 絶縁被覆付き) はネジサイズに適合するものを使用してください。



- 圧着端子などの導体部分が、隣接した導体部分 (端子等) と接触しないように注意してください。

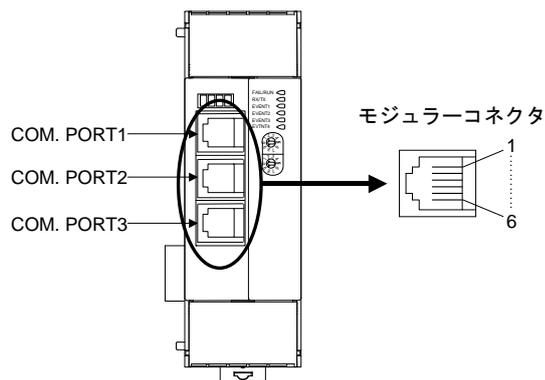
6.2 端子構成



制御出力が電流出力または電圧出力の場合、ヒータ断線警報 (HBA) 機能は使用できません。

- 11 番端子は不使用となります。
- 入力チャネル 2 をリモート設定入力として使用可能 (電圧/電流入力のみ)。この場合、制御出力 2、CT 入力 2 は不使用となります。

6.3 コネクタピン構成



- モジュラーコネクタ COM. PORT1:**
PLC またはホストコンピュータ接続用コネクタ
RS-422A/RS-232C 準拠 (注文時に指定)
- モジュラーコネクタ COM. PORT2:**
PLC またはホストコンピュータ接続用コネクタ
RS-422A 準拠
- モジュラーコネクタ COM. PORT3:**
SRX ユニット増設用コネクタ
RS-422A 準拠

●RS-422A

ピン番号	信号名	記号
1	受信データ	R (A)
2	受信データ	R (B)
3	信号用接地	SG
4	送信データ	T (B)
5	送信データ	T (A)
6	信号用接地	SG

●RS-232C

ピン番号	信号名	記号
1	不使用	—
2	送信データ	SD (TXD)
3	信号用接地	SG
4	受信データ	RD (RXD)
5	不使用	—
6	信号用接地	SG

通信ケーブルは、接続するホストコンピュータまたは PLC にあったものを、お客様で用意してください。なお、通信ケーブルとして当社製接続ケーブル W-BF-01*、W-BF-02*および W-BF-28 が使用できます。
* ケーブルのシールド線は、コネクタの SG (6 番ピン) に接続されます。

X-TIO-R モジュールに接続するモジュラーコネクタは 6P タイプを使用してください。
モジュラーコネクタの推奨品:
TM4P-66P (ヒロセ電機株式会社製)

7. 仕 様

■ 入 力

入力点数:	2点 (チャンネル間絶縁)
入力種類:	
●熱電対入力:	K, J, T, S, R, E, B, N (JIS-C1602-1995) PLII (NBS) W5Re/W26Re (ASTM-E988-96)
●測温抵抗体入力:	Pt100 (JIS-C1604-1997) JPt100 (JIS-C1604-1989, JIS-C1604-1981 の Pt100)
●電圧 (低) 入力:	DC 0~10 mV, DC 0~100 mV, DC 0~1 V
●電圧 (高) 入力:	DC 0~5 V, DC 0~10 V, DC 1~5 V
●電流入力:	DC 0~20 mA, DC 4~20 mA (入力インピーダンス: 250 Ω)
サンプリング周期:	25 ms
PV バイアス:	-入カスパン~+入カスパン
CT 入力:	2点 0.0~30.0 A (CTL-6P-N) または 0.0~100.0 A (CTL-12-S56-10L-N)

■ 出 力

出力点数:	2点 (入力-出力間、出力-電源間絶縁)
出力種類:	
●リレー接点出力:	AC 250 V, 3 A (抵抗負荷)、1a 接点 電氣的寿命: 30 万回以上 定格負荷
●電圧パルス出力:	DC 0/12 V (負荷抵抗 600 Ω以上)
●電流出力:	DC 0~20 mA, DC 4~20 mA (負荷抵抗 600 Ω以下)
●電圧出力:	DC 0~5 V, DC 0~10 V, DC 1~5 V (負荷抵抗 1 kΩ以上)

■ 制 御

制御点数:	2点
制御方式:	プリリアント PID 制御 正動作、逆動作選択可能
付加機能:	オートチューニング機能 出力リミッタ機能 出力変化率リミッタ機能

■ イベント

イベント点数:	2点/チャンネル
イベント種類:	温度イベント: 上限偏差、下限偏差、 上下限偏差、範囲内、 上限入力値、下限入力値

■ ヒータ断線警報 (HBA) 機能

HBA 点数:	2点
設定範囲:	0.0~100.0 A (0.0 A 時は OFF)
付加機能:	警報遅延回数設定: 1~255 回

■ 制御ループ断線警報 (LBA) 機能

LBA 点数:	2点
LBA 時間:	1~7200 秒
LBA デッドバンド (LBD) 設定:	0~入カスパン

■ プログラム制御

パターン数:	最大 16 パターン (パターンリンク機能あり)
セグメント数:	最大 16 セグメント/パターン
タイムシグナル出力:	16 点/パターン

■ PLC 通信

通信インターフェース:	EIA 規格 RS-422A 準拠 EIA 規格 RS-232C 準拠 (RS-232C は COM. PORT1 使用時のみ)
通信プロトコル:	三菱電機株式会社製 MELSEC シリズ 専用プロトコル - ACPU 共通コマンド (WR/WW) (A シリズ、FX2N、FX2NC シリズ) - AnA/AnUCPU 共通コマンド (QR/QW) (AnA/QnA シリズ、Q シリズ)
最大接続台数:	PLC の 1 つの通信ポートに対して X-TIO-R モジュール 4 台

■ ホスト通信

●ホスト通信端子使用時	
通信インターフェース:	EIA 規格 RS-485 準拠
通信プロトコル:	RKC 通信 (ANSI X3.28-1976 サブカテゴリ 2.5, B1) または MODBUS
最大接続台数:	ホストコンピュータを含めて 31 台

●モジュラーコネクタ使用時

通信インターフェース:	EIA 規格 RS-422A 準拠 EIA 規格 RS-232C 準拠 (RS-232C は COM. PORT1 使用時のみ)
通信プロトコル:	RKC 通信 (ANSI X3.28-1976 サブカテゴリ 2.5, B1) または MODBUS
最大接続台数:	RS-422A: 16 台 (X-TIO-R モジュール) RS-232C: 1 台 (X-TIO-R モジュール)

■ その他

電源電圧:	DC 21.6~26.4 V (電源電圧変動含む) (定格 DC 24 V)
消費電流:	最大 185 mA/モジュール
許容周囲温度:	-10~+50 °C
許容周囲湿度:	5~95 %RH (結露がないこと) 絶対湿度: MAX.W.C 29.3 g/m ³ dry air at 101.3 kPa
設置環境条件:	屋内使用 高度 2000 m まで
質 量:	約 280 g

- MODBUS は Schneider Electric の登録商標です。
- プログラマブルコントローラ (PLC) の各機器名は、各社の製品です。
- その他、本書に記載されている会社名や商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

初 版: 2004 年 3 月 [IMQ00]
第 2 版: 2013 年 8 月 [IMQ00]